

『花を訪ねて： 秋の七草』

長瀨七草寺散策 (2023年9月10日(日))

9月の例会で、今週末に実施の「長瀨七草寺散策」の計画に対して、三浦さんから「野上駅が上がりでは喉の渇きを潤す所(店)がないから、逆ルートで長瀨駅を上がりにしよう」というご提案があり、成程と納得した。それで“野上駅に10時集合”に変更した。参加者は伊藤、三浦、三ヶ原さんと小生の4名になった。秋の長雨の季節なので天気が心配だったが、台風11号が通り過ぎた後だったので、晴れが期待された。ところで、まだ暑い時期で全七寺を歩くと約13kmもあるので、四寺のみに絞ったのだ。ちなみに秋の七草は「萩、尾花(ススキ)、葛、撫子、女郎花、藤袴、桔梗」。

当日は予報通り晴れで暑くなることが予想される。西武線の駅に「巾着田の彼岸花祭り」(9月14日～9月16日)の案内パンフレットが出ていた。飯能で乗り換えた車輛で皆さん合流、西武秩父駅に到着。乗換のため秩父鉄道「御花畑駅」へ歩く。

野上駅から9時50分に出発する。少し先の踏切で線路を渡り、田舎道を進み、10時に「多宝寺」に着いた。ここは「桔梗」である。狭い境内のあちこちに矮性の白・紫色の桔梗が植えられていた。少し最盛期は過ぎてはいたが十分見応えのある様相だった。また境内には嘉納治五郎の師匠であった福田柳儀齋の石碑が立っていた。

ここから少し広い道を進み、荒川に架かる「高砂橋」を渡る。橋上から覗くと上流の長瀨側からラフティングのゴムボートが下ってくるのが見えた。それほど流れは急ではないが皆さん楽しそう。また名物「長瀨川下り」の舟も下って来た。乗っている人達、橋上の我々に向かって手を振っている。

10時35分、「法善寺」に着く。ここの「藤袴」には期待していたが、今夏の猛暑による水不足か、根元から枯れてしまって、わずかな株が残っているだけだった。この寺の枝垂れ櫻も有名と。

白い雲が直接の光をさえぎってはくれるが、やはり炎天下の舗装道路を歩くのはつらい。時々向うから来る「長瀨七草寺巡り」のパンフレットを手にした人達とすれ違う。今度は「金石水管橋」という歩行者と“水”のみの橋を渡って向う岸へ戻る。やはり橋の上からは幾艘かのラフティングボート、川下り舟を見る。

11時10分に次の「真性寺」に着いた。ここでは見事な「女郎花」の花が出迎えてくれた。仕舞屋のような本堂の前のベンチで、小休止をして一息ついた。黄色の女郎花に対し「男郎花(オトコエシ)」という白花があったが、世の中の常、生命力は“男”の方が弱くようやく2株だけ咲いていた。また白色・ピンク色の秋明菊も咲いていた。

11時35分出発、国道140号線を横切って、炎天下の田舎道を南へ向かう。12時に「宝登山神社」の大鳥居の先に出て、参道へはいるがこれが結構な登り道だ。12時20分に「宝登山ロープウェイ駅」横の「不動寺」にたどり着いた。ここは「撫子」の花だが、もう遅く境内の斜面に植えられた分は花茎も切り取られていた。辛うじて、本堂前の植え込みに植えた分が白と桃色の花を付けていた。

不動寺から宝登山神社の参道の坂を下り、長瀨駅へ出る。昼食のお休み所を探しながら「長瀨岩畳」

へ向った。13時に川岸の崖の上に建つ「見晴」というお店に入る。炎天下の長い道を約4時間歩いてきて、やっと冷たい飲み物にありつけた。こんなに暑い筈ではなかったのですが、皆さんご苦勞様でした。「長瀨秋の四草寺」になってしまったが、まあヨシとしてください。今後のビスターリの実行計画の話などが出て、更に「忘年山行」では「京王線：長沼駅附近の長沼公園と「鎌田鳥山」での会食」という案でまとまりそうです。

反省会后、眼前の「長瀨岩畳」へ出る。日曜日なので川下り舟やラフティングボートなど大繁盛、親子連れも沢山来ていた。14時45分頃長瀨駅に戻り、15時4分発の電車で、御花畑経由、西武秩父から帰途に着いた。

以上 陽田



桔梗 (多宝寺)



藤袴 (法善寺)



女郎花 (真性寺)



撫子 (不動寺)



(真性寺にて)

写真：<https://youtu.be/CfdBRy0e7Cc>